下野国庁跡（しもつけこくちょうあと）

国府（こくふ）は、律令時代（りつりょうじだい）の下野国統治（とうち）の中核（ちゅうかく）として設置された役所です。国府の中心部「国庁（こくちょう）」は、中央に正殿（せいでん）（未確認（みかくにん））・前殿（ぜんでん）、東西に脇殿（わきとの）を配置し、これらを一辺約９５メートルの板塀（いたべい）で囲み、南には門が開かれ、国司（こくし）が中心となって様々な儀式（ぎしき）や行政事務（じむ）が行われました。現地では、復元（ふくげん）された前殿や「下野国庁資料館」を見学することができます。

（「栃木市文化財マップ」栃木市教育委員会から）